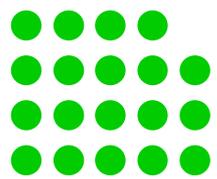


**平成30年度
自主防災組織
アンケート調査結果の
概要について**

津市 危機管理部防災室



自主防災組織アンケート調査の概要

○アンケートの目的

自主防災組織における**活動状況とその課題**を改めて把握することで、今後の地域防災力の向上に役立てていくため。

○配布数及び回収数

配布数	回収数	回収率
864組織	550組織	63.6%





アンケート結果① 地域の防災訓練の課題（抜粋）

質問①

自主防災訓練を計画・実施する上で問題となっていることは何ですか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

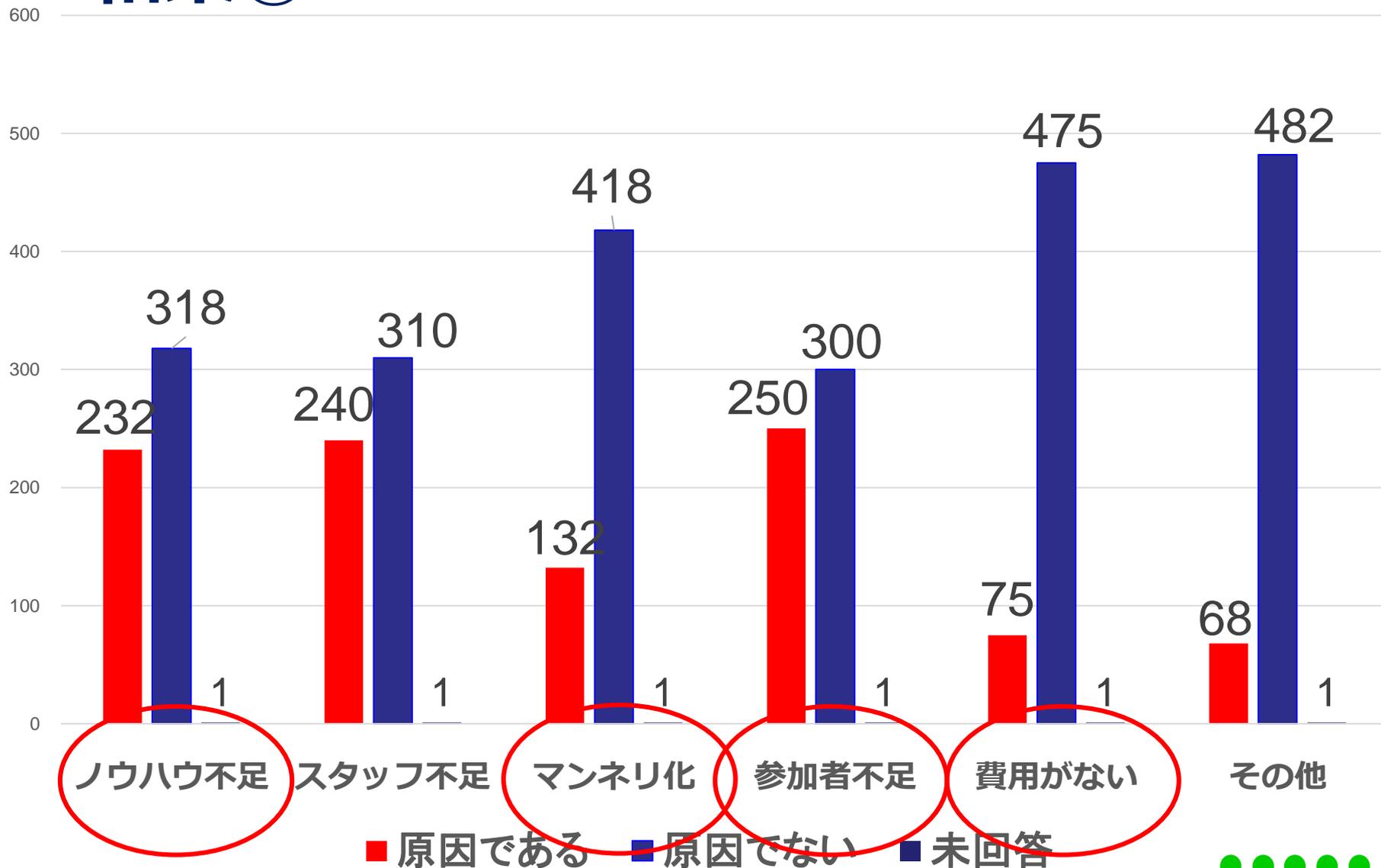
- 訓練計画の作成や実施についてのノウハウが不足している
- 訓練計画の作成や訓練を実施するスタッフが不足している
- 訓練内容がマンネリ化している
- 参加者が集まらない
- 訓練実施のための費用の支出が難しい
- その他

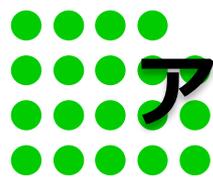


アンケート結果① 地域の防災訓練の課題（抜粋）

結果①

n=550（複数回答有）





アンケート結果① 地域の防災訓練の課題（抜粋）

その他の項目について

- ・ 防災規定、計画が実態に合っていない
- ・ 道具や機器等不足がちで思った日に訓練が実施できない
- ・ 高齢者が多く、避難自体が難しい
- ・ 自主防災会が実態として存在しない、組織できない
- ・ 役員の交代が早い
- ・ 専門的な人の不足
- ・ やる気がない
- ・ 防災に対する認識・意識不足
- ・ 会場・場所がない
- ・ 訓練不足
- ・ 広報活動に悩んでいる
- ・ 高齢化により、発生時の対応につなげる仕組みが必要

アンケート結果① 地域の防災訓練の課題（抜粋）

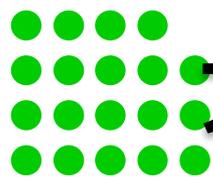
【自主防災会で取り組んでいる参考となる事例】

- **訓練と同時に納涼大会**（ビンゴゲームなど）を開催していることもあり、住民の約7割の方が参加をしている。
- 子ども向けにミニ消防車などを体験してもらい、**子どもから高齢者まで参加してもらえるようにしている。**



自主防災活動に対する市等の支援を活用しよう！

制度の種類	内容
津市地域防災力強化推進補助金	自主防災会を組織する自治会、自主防災会及び地区自主防災協議会が行う 防災資機材等の整備に係る費用及び防災活動に要する費用に対して補助金 を交付します。
防火防災訓練災害補償等共済制度	防災訓練中の事故によるけがや賠償責任について保障するための制度があります。 この制度は、訓練を行う前に市への届出が必要になりますので、必ず訓練計画届出書を届け出てください。
防災研修会・防災訓練等への職員派遣	市では、自主防災会や自治会等が自主的に行う防災研修会、防災訓練等において、 職員の派遣 を行っています。職員の派遣を希望される場合は、防災室まで御連絡ください。
津市以外の防災関係機関が行う講習等	三重県や津地方気象台、日本赤十字社三重県支部等 様々な機関でも出前講座等を実施 しておりますので、積極的に御活用ください。



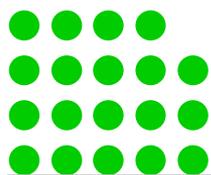
アンケート結果② 地域の備蓄状況（抜粋）

質問②

南海トラフ地震や大規模災害が発生した場合、国や三重県、津市から救援物資がすぐに到着しないことも考えられますが、各自主防災会で災害に備えて上記以外に準備していますか。該当するもの全てにチェック等をお願いします。

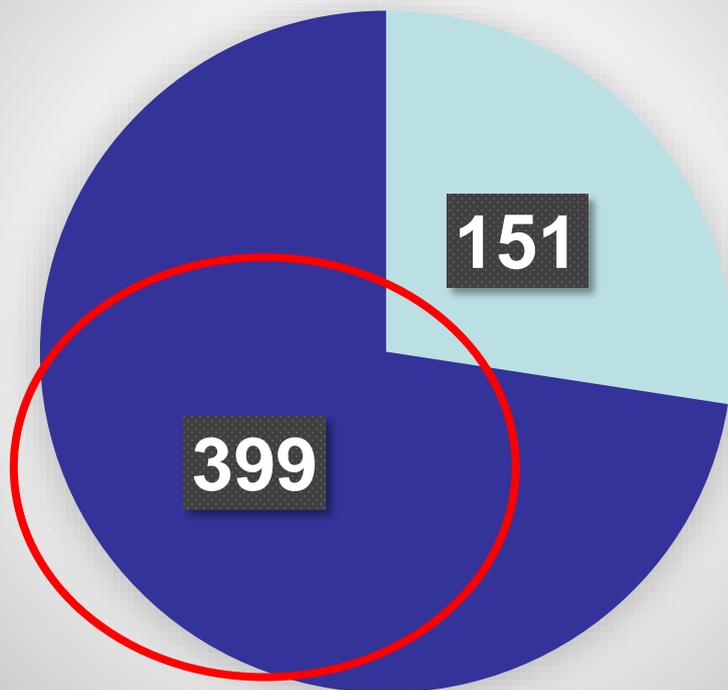
- 食糧
- その他





アンケート結果② 地域の備蓄状況（抜粋）

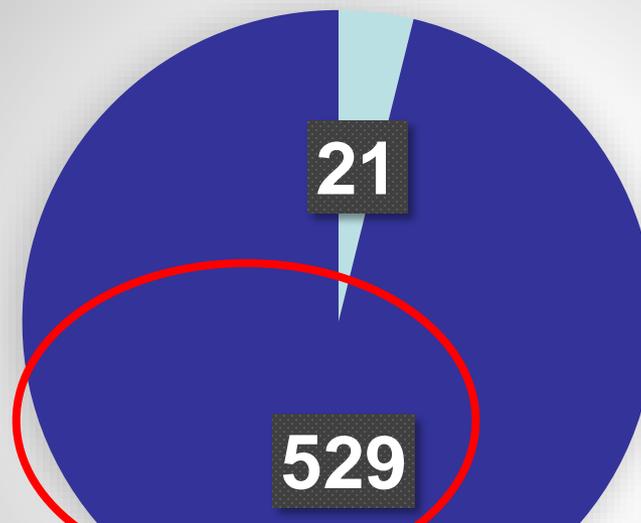
食糧の備蓄



結果②

n=550

その他の備蓄



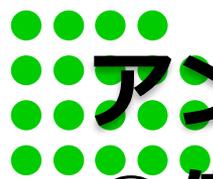
- 備えている
- 備えていない

地域における防災学習支援について

津市では地域への支援として防災研修会、防災訓練への職員派遣や啓発用物品の提供などを行っています。

地域の防災力を高めるために、
取り組みをぜひ活用してください。





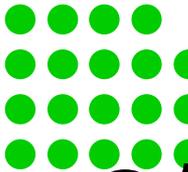
アンケート結果② 地域の備蓄状況（抜粋）

○備蓄例について

【食糧】

- 乾パン、缶詰パン
- アルファ米、米、わかめごはん
- 水
- ビスコ
- エイヨウカン
- カレー、ドライカレー
- ビスケット
- エビピラフ、やきとり





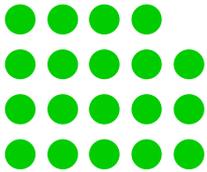
アンケート結果② 地域の備蓄状況（抜粋）

○備蓄例について

【その他】

- 発電機
- チェーンソー
- ブルーシート
- リヤカー
- タオル
- 軍手
- 非常用保温アルミシート





アンケート結果③ 補助対象を望む資機材（抜粋）

質問③

津市地域防災力強化推進補助金において、新たに補助対象に追加を希望する防災資機材等がありましたら、ご記入ください。



アンケート結果③ 補助対象を望む資機材（抜粋）

【追加したい防災資機材】

- 毛布
- 携帯ガスコンロ
- 簡易テント（避難用）
- 仮設トイレ
- 防水シート
- 消火器
- ヘルメット
- バケツ
- 携帯トイレ
- ブルーシート

結果③

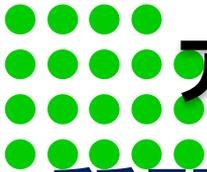
全て補助金の
対象



地域防災力強化推進補助金の概要

- 毎年、4月上旬から6月末までを補助金の申請期限としています。
- 自治会長様へ、ほかの補助金制度の案内と一緒に4月上旬に送らせていただいております。
- 補助金は防災資機材、防災活動の費用に対して半額出ます。（原則、上限10万円）





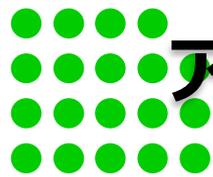
アンケート結果④ 避難所運営委員会の課題（抜粋）

質問④

避難所運営委員会の運営について、課題等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- 避難所運営委員会の運営についてのノウハウが不足している。
- 避難所運営委員会の運営に協力してくれるスタッフが不足している。
- 参加者が集まらない。
- 訓練実施のための費用の支出が難しい。
- その他

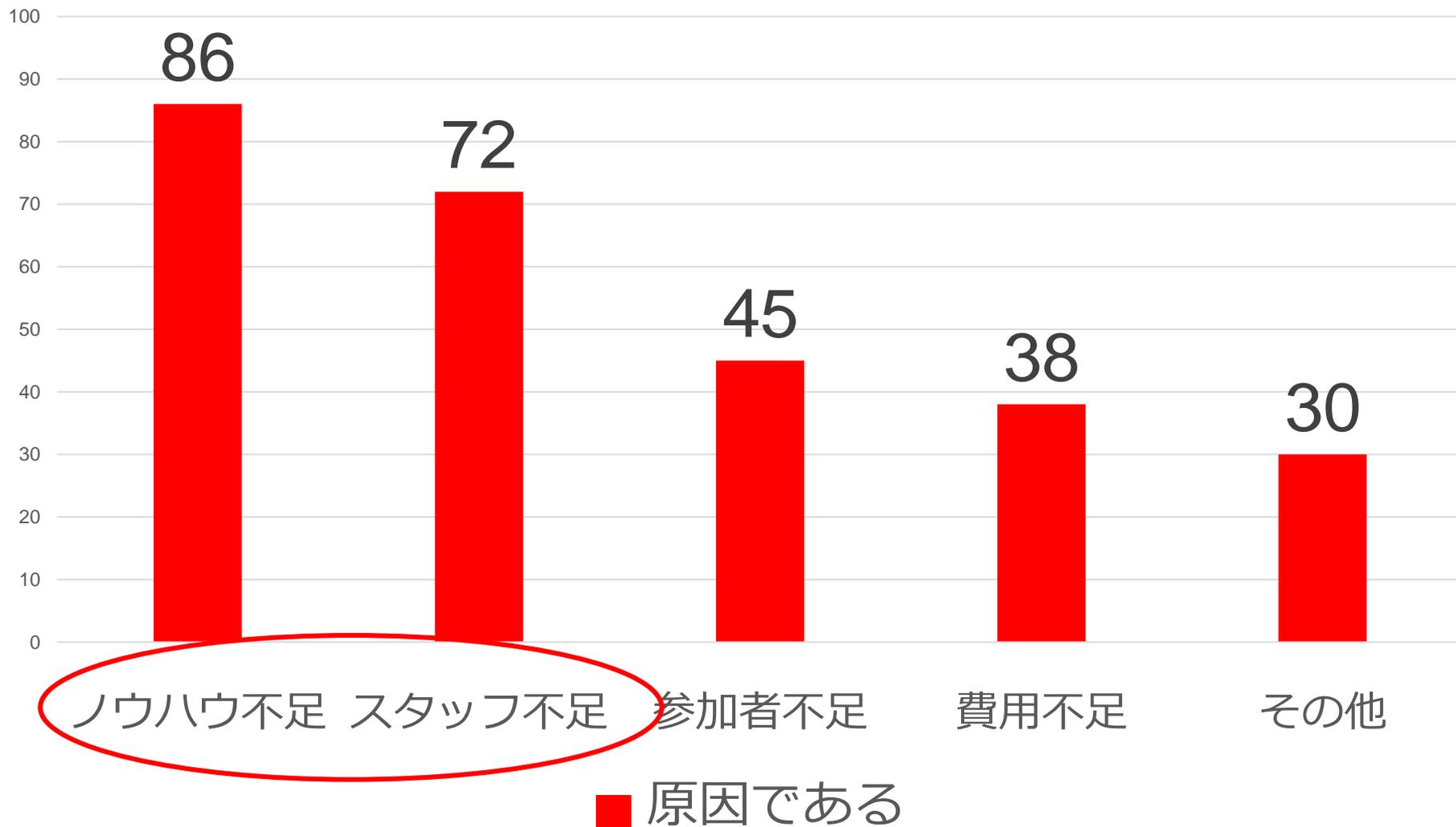


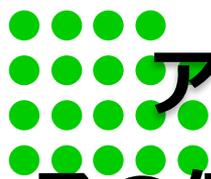


アンケート結果④ 避難所運営委員会の課題（抜粋）

結果④

n=550（複数回答有）





アンケート結果④ 避難所運営委員会の課題（抜粋）

その他の項目について

- 広域避難を前提とした広域自治会の調整組織を早急に確立する必要がある
- 訓練計画が未実施である
- 行政に頼るのは限界があり、自主ではなく自己防衛が必要
- 地域のコミュニティが希薄である
- 住民の関心が薄く参加しない
- 地域住民の高齢化
- 行政のイニシアチブが必要ではないか
- 被災規模により、どれだけの活動が必要で可能なのが具体化する資料がない
- 災害の経験がないので他人事と思って真剣に考える人が少ない。
- 訓練は役員のみで住民の参加はないと思う



避難所運営マニュアル策定の手引の活用

津市避難所運営マニュアル策定の手引き

ほかにも津市避難所運営モデル事業の報告書も作成しておりますので、事例として参考にして下さい。

津市

平成25年1月策定

平成29年3月改訂

津市避難所運営マニュアル策定の手引き 概要版

避難所の運営は
地域の方々や施設管理者、
行政の三者の相互協力が大切！

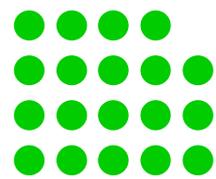
避難所の運営については、近年の大規模な地震災害の教訓から、大規模かつ突発的な災害の発生に際して、行政主体の避難所運営は難しいことが明らかとなっており、災害時に誰がどんな状況で避難所に到着しても、円滑に避難所の運営が行えるように、地域の自主防災組織等を中心として、避難者自らによる自主的な避難所の運営体制をあらかじめ確立しておくことが重要です。

避難所は地域のライフラインの復旧及び被災者の一定の生活ができるまでを目途として設置されるよ。

避難所の機能

支援分野	支援項目	内容
安全・生活基盤の提供	①安全の確保	生活・身体の安全確保
	②水・食料・物資の提供	水・食料・衣服・寝具等の提供
	③生活場所の提供	就寝・安息の場の提供 プライバシーの確保 最低限の暑さ・寒さ対策
保健・衛生の確保	④健康の確保	健康相談等の保健医療機能
	⑤衛生的環境の提供	トイレ・ごみ処理
情報支援	⑥生活支援情報の提供	営業店舗などの情報
	⑦復興支援情報の提供	生活再建・仮設住宅・復興情報
コミュニティ支援	⑧コミュニティの維持・形成の支援	従前のコミュニティの維持、避難者同士の励まし合い、助け合い、外国人住民との協働





アンケート結果⑤ 避難行動要支援者への支援（抜粋）

質問⑤

避難行動要支援者を支援する際の課題がありましたら該当するもの全てにチェック等を入れてください。

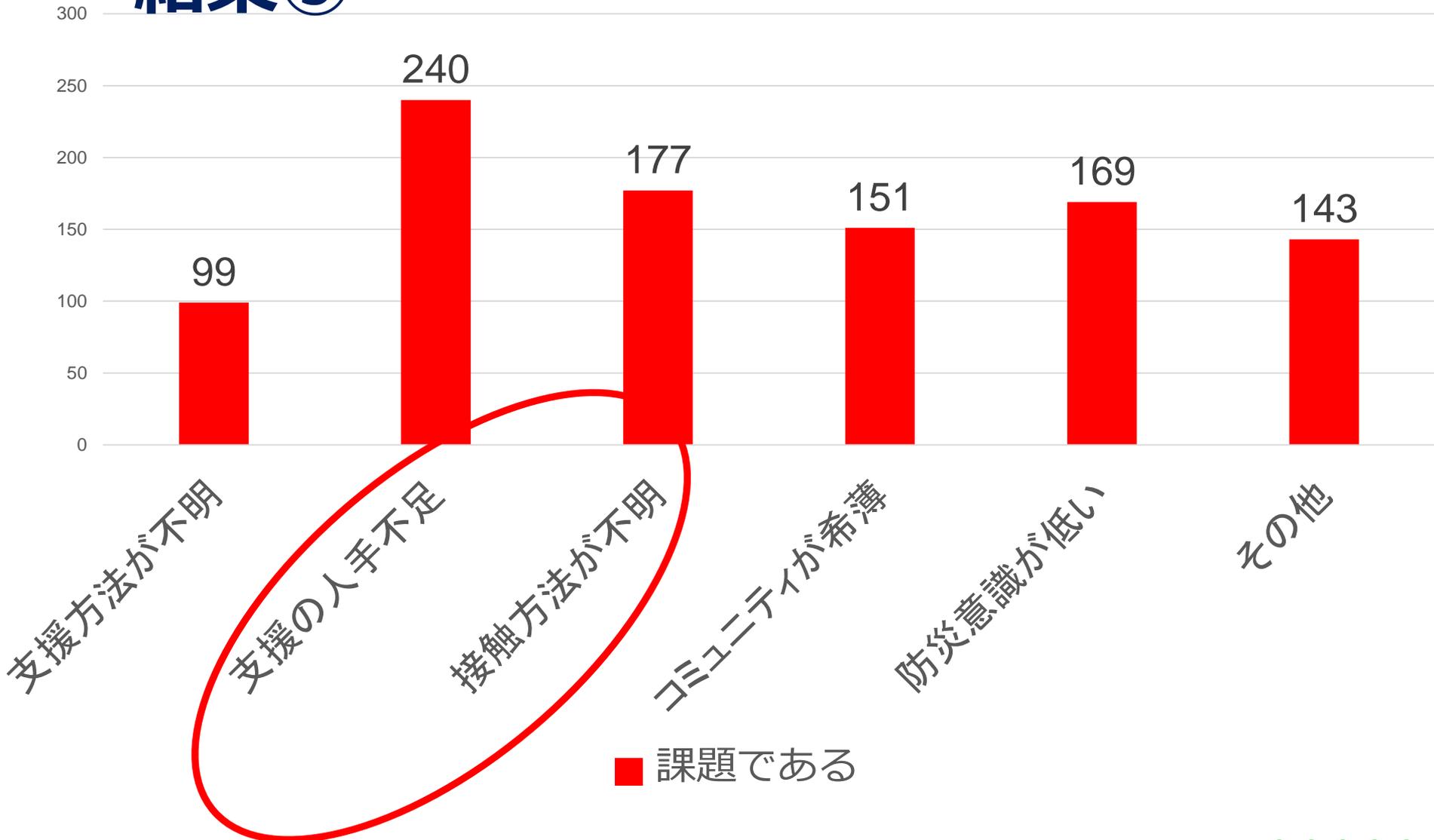
- どのように支援したらいいのかわからない
- 支援するための人手が足りない。
- 避難行動要支援者とうまく接触する方法がわからない。
- 地域でのコミュニティが希薄である。
- 周りの方の防災意識が高くない。
- その他

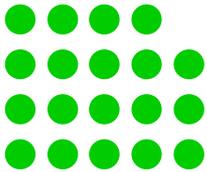


アンケート結果⑤ 避難行動要支援者への支援（抜粋）

結果⑤

n=550（複数回答有）



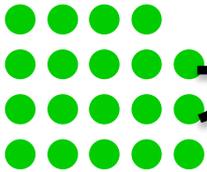


アンケート結果⑤ 避難行動要支援者への支援（抜粋）

その他の項目について

- 高齢者が早々具体的に身体を使う訓練は考えられない
- 家のことは他人に知られたくない気持ちが大い
- 要支援者で医療機関の障害カードが発行されているが、何が障害かわからない。自治会長、防災会長に教えてほしい（民生委員は知っている）
- 家族の連絡先が明らかでない
- 明らかであったとしても本当に有事の時、手助けが必要かわからない
- 実情として必要性は認識しているが、手の回らないのが現実
- 民生委員と自治会の連携ができていない
- 支援する人より支援を必要とする人の方が多い





アンケート結果⑤ 避難行動要支援者への支援（抜粋）

【自主防災会で取り組んでいる参考となる事例】

- 一人住まい老人月1～2回訪問しコミュニケーションを図る。**要支援者への担当者**を決めている
- **避難済を示す黄旗**を各戸に配布している
- 支援者宅を訪問し支援を確認し、**行動支援担当**を決めている
- **自治会（自主防災会）の本部役員、班長に所属している要支援者の氏名を伝達**して、災害発生時の声かけ、確認をお願いしている



避難行動要支援者支援の流れ

災害発生！

安否確認

自主防災組織や支援者等による安否確認

避難時の声掛け・情報伝達

寝たきりの高齢者や眼・耳の不自由な人等への避難の呼びかけをする

避難誘導

自力による避難行動が困難な場合は避難を行う。

高台・避難所などの安全なところ

安否の確認と情報伝達、避難誘導



安否の確認

- 安否を確認し、避難所へ誘導しましょう。

- 避難が不要な場合でも、避難行動要支援者が孤立しないように声をかけましょう。



- 本人からの申し出があった場合、家族や緊急連絡先などへの連絡に協力しましょう。



安否の確認と情報伝達、避難誘導

情報格差をなくす

- 簡潔でわかりやすい言葉を使いましょう。



- 口頭で伝えるだけでなく、文書も配布しましょう。



- 耳の不自由な人や高齢者、外国人に対しては、大きな声で、ゆっくり、はっきり話しましょう。



- 文字による伝達は、大きくわかりやすい字で、外国人や子どもなどにも伝わるよう、ひらがなを多く使うなど配慮しましょう。



- 重要な情報は、一軒ずつ住宅を回るなどして確実に伝えていきましょう。



- 数字に関する情報は、誤解などを生む危険性があるので、特に注意しましょう。



避難誘導について

避難誘導の際には、事前に複数の避難経路を把握した上で、安全なルートを確認しながら誘導します。また、避難誘導する際には、避難行動要支援者の特性を理解した上で支援します。

車いすの方の介助の場合

上り坂の時は進行方向に向かって前向き、
下り坂の時は進行方向に向かって後ろ向きになります。



寝たきりの方の介助の場合

自主防災組織などの支援をする方で担架や毛布などを使って避難を手伝います。

目の不自由な人の場合

誘導する人の肘の少し上を掴んでもらいます。

誘導する人は目の不自由な人より半歩前を歩き
進行方向の状況を知らせます。



地域で備えよう ～自主防災活動～

神戸市では、建物倒壊等により発生した多くの要救護者のうち家族や近隣住民により救出された方は
(全体の85%) (共助の力)



地震の規模によっては、市や消防署などが、すべての被災地に駆けつけられないかもしれません。

